

キーワード

思考力・表現力・判断力等の育成

標 題

国語科における思考力・表現力を高めるための指導法の習得

①学校の概要（平成25年6月29日現在）

・児童生徒数 295名 ・学級数 14学級 ・教職員数 30名

②取組を始めた経緯

本校では基礎的・基本的な力を土台として思考し、自分の考えを持つことで、発表に対する意欲が高まり、児童一人ひとりが表現し・伝え合うことにより、学びが深まるという視点で取り組みを進めている。2年前から取り組みの中心を国語の物語文と説明文の読み取りとし、実践を重ねている。

③取組の実施体制

○低・中・高学年の部会で全体公開授業を計画する。
○部会公開授業を計画し、1人1公開授業をする。
○研究日を設定し、外部講師からも積極的に助言をいただく。

④学力向上に向けた具体的な取組

- ①授業スタイルの改善。
 - ・問題解決型学習（国語科の物語文・説明文を中心に東小スタイルの指導案の作成）の実践。
 - ・話形・ハンドサイン等学習規律の確立。
 - ・公開授業研究・研究会の開催。
- ②パワーアップタイム（朝自習）の工夫・充実。
 - ・読む・書く・計算・話すの基礎基本の徹底。
- ③活用できる場の設定と学び合う集団づくり
- ④子どもの実態・学力テストの結果分析に基づく支援方法の共有化。
- ⑤岡山県到達度確認テストの活用。
- ⑥ふれあい読書による家庭学習・読書習慣の確立。

⑤取組の成果と課題

○成果

- ・どの教科でもめあてを意識した授業展開ができています。
- ・国語科の物語文・説明文では学習のめあてを児童がつくる取り組みが定着してきた。
- ・自力解決後の発表会で多くの児童が発言できている。

○課題

- ・学習のまとめを児童が自分の言葉でどのように書くかを工夫していくこと。
- ・話し合いにおける発問の工夫と教師のコーディネーター力のスキル開発。

⑥取組の継続・発展の要因

○重点教科の中心を国語とし、3年をビジョンとして（習得の1年次・実践の2年次・確立の3年次）、はっきりとしたテーマを掲げて実践してきた。

○全員が授業公開をすることを積み上げることで、研究の共有化が具体的なものとなった。

○先進校や外部講師からの学びを生かす授業づくりを工夫してきた。

⑦管理職・中核教員等のアクション

○校内研究体制の確立と推進の中核を担う。

○日々の授業の参観と助言を行う。

○外部講師を招聘する。

○先進校の研究会への参加を促す。

⑧資料・写真等

